

2026年度 日本工学院八王子専門学校											
建築学科											
設計演習 6											
対象	4年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	升水 健太			実務 経験	有	職種	建築設計				
授業概要											
実践的な課題を通して、総合的に建築の計画、設計手法について学びます。											
到達目標											
実践的な設計課題に取り組みながら、建築の計画・設計手法を総合的に身に付け、自らテーマを設定して調査・構想・設計・表現までを一貫して行える力を養い、卒業制作への橋渡しとする。											
授業方法											
レクチャー、参考事例紹介、建築見学、ディスカッションを行いながら、各自が設定したテーマに沿ってスタディと図面作成を進めるスタジオ形式とし、途中講評や中間・最終発表を通して学びを深める。											
成績評価方法											
最終提出物・プレゼンテーション40%、中間発表30%、日常の取り組み姿勢・スタディ過程20%、出席10%を目安に総合評価し、欠席・遅刻や課題未提出が多い場合は不合格となる場合がある。											
履修上の注意											
卒業制作や将来のポートフォリオにつながる重要な科目であるため、指示待ちではなく自分からテーマを深める姿勢が求められ、模型・印刷費などの制作コストや現地見学にかかる時間も見込んで計画的に取り組む。											
教科書教材											
特定の教科書は定めず、建築雑誌・作品集・作品年鑑・卒業制作作品、インターネット上の事例やレクチャー資料、見学先建物のパンフレットなどを随時参照し、教員が用意する課題要項・配布資料を活用する。											
回数	授業計画										
第1回	授業の目的・評価方法・年間の流れを説明し、卒業制作や進路を意識しながら、自分が関心のある建築テーマや社会的課題を各自で書き出して共有し、設計演習6での目標を言語化する。										
第2回	建築の計画・設計プロセスに関するレクチャーを行い、事例紹介を通してテーマの見つけ方やコンセプトメイクの方法を学びながら、自分の興味と結び付けた「仮テーマ」を設定する。										
第3回	敷地や対象となる場所の候補を検討し、地図やストリートビュー、既往の資料などを用いて複数案を比較しながら、各自が扱う敷地（または対象建物）を暫定的に決めて調査計画を立てる。										

## 建築学科

## 設計演習 6

第4回	現地見学またはオンライン見学を通して敷地や周辺環境を観察し、写真やスケッチ、メモを取りながら一次情報を収集し、その場で感じたことや気付いた課題をスタディシートに整理する。
第5回	見学結果の共有会として各自が敷地や対象の様子を発表し、良い点と問題点を整理しながら、そこでどのような建築が求められるか、どのようなテーマ設定が可能かをディスカッションする。
第6回	建築計画的な整理としてクライアント像・利用者像・用途・必要室・規模感などを言語化し、ゾーニングや関係図、コンセプトワードなどを用いて、自分の課題の「設計条件」と「方向性」を明確にする。
第7回	平面・断面・ボリュームの初期スタディとしてスケッチやスタディ模型、ダイアグラムを用いて複数案を検討し、各自が案の特徴と狙いを説明するミニ講評を行って改善点を整理する。
第8回	中間発表に向けた整理として敷地図・コンセプトシート・簡易な配置図と平面図・断面イメージ・参考事例などをA3～A2程度にまとめ、自分の建築が解決しようとするテーマをわかりやすく構成する。
第9回	中間発表として各自が現時点の計画案とコンセプトをプレゼンし、教員・クラスメイトからのコメントや質疑を通して、テーマの深さや矛盾点、今後掘り下げるべきポイントを明確にする。
第10回	中間講評を踏まえてプランと断面構成を再検討し、動線計画・寸法感覚・光や風の入り方など建築計画の基本を確認しながら、1～2案に絞り込んで図面の精度と説得力を高める。
第11回	外観・内観の空間表現としてパース・カラージュ・スケッチモデルなどを用いて、建築の雰囲気や素材感、スケール感を表現し、自分の建築の「らしさ」が伝わるビジュアルを複数作成する。
第12回	図面・模型・パースの総合的なブラッシュアップを行い、卒業制作や作品集を意識した図面構成やレイアウトを試しながら、自分の強みが伝わる見せ方や説明の順番を工夫する。
第13回	プレゼンテーション練習として、制限時間内でコンセプト・敷地・計画のポイント・空間の特徴を説明する練習を行い、スライドやパネルの構成を見直しながら、伝わりやすい話し方を身に付ける。
第14回	最終発表会として各自が設計演習6の成果を発表し、教員から総合講評を受けるとともに、卒業制作につなげたい点や更に深めるべき課題をコメントとして受け取り、今後の方向性を確認する。
第15回	授業全体の振り返りとして、設計演習6で得た学びと自身の変化を振り返るレポートを作成し、卒業制作の仮テーマや今後の調査・スタディの計画を文章と簡単なスケッチで整理して次のステップへつなげる。